

2025

7

真宗大谷派京都教区教化広報誌

教区だより

新連載

「女性教化」の近・現代史を紐解く
—真宗大谷派の場合—

大谷大学文学部歴史学科教授 福島 栄寿 氏

特集

新連載に寄せて

特集

雅楽 長浜・五村別院楽僧会

今、この時に、親鸞聖人に会う

近江第2組 木村 愛 氏

「女性教化」の近・現代史を紐解く

―真宗大谷派の場合―

福島 栄寿 ふくしま えいじゅ

大谷大学文学部歴史学科教授



第1回

筆者が生まれ育った頃―自己紹介をかねて―

はじめに、簡単に自己紹介させてください。私は、一九六五（昭和四〇）年に京都市内で生まれました。父の職場が京都市内にあり、下鴨神社近くの小さなアパートが住処でした。母が妹を妊娠すると、家族が増えるということで、伏見稲荷大社の参道近くの、父の職場の寮に引っ越しました。その頃の京都市内は、市電とボンネットバスの市バスが行き交い、国鉄奈良線には、まだ蒸気機関車が走っていました。市電伏見線が廃止された翌々年（一九七二年）、小学生になる春に滋賀県の新興住宅地へ引っ越しました。所得倍増と高度経済成長の時代でした。

現在は、子どもとスマートフォンやインターネットとの付き合い方が話題となりますが、私が子どもの頃は、例えば「仮面ライダーゴッゴ」が流行り、多くの子供が高い所から飛び降りて怪我をし、そのためテレビがやり玉に挙げられる程に、テレビ全盛の頃でした。

自宅では、父が知り合いから譲り受けた白黒テレビで、アニメの再放送を日課のように見ていました。男子小学生には、『巨人の星』が人気でした。ジャイアンツの全盛期で、バットとグローブを空き地に持ち寄り、草野球をして遊びました。女子小学生には、『アタックNo.1』が人気でした。どちらもスポーツ根性系アニメでした。地域の子ども会には、女子小学生のバレーボールチームと、男子小学生の野球チームが結成され、校区では毎年、大会が開催されました。

そんなスポ根アニメの影響もあってか、子ども心に強さへの憧れを抱きました。男子は強くなくてはダメで、強くなるには我慢と忍耐が大事。同級生の男子は、そう思い込んでいたように思います。中学時代の野球部では、真夏でも練習中に水を飲むことは禁止されていました。苦しみに耐えれば、精神も

肉体も鍛えられる。それが、部活動の大切な意味でもあるのだと。生徒たちはもちろん、指導する教師も、いまではあり得ないような「信念」を抱いていたと思います。

球技と言え、男子は野球、女子はバレーボールという具合に、あるいはランドセルは、男子は黒色、女子は赤色などと同様に、本人の好みとは無関係に、性別によって選択肢が決められていることが「当たり前」の時代でした。かく言う私のランドセルは黒色でした。

徒然なるままに思い出を認めましたが、要するに、私が少年時代までに知らず知らずに身につけてきた「当たり前」の価値観は、少なからず、生まれ育った時代社会、身近な生活・家庭環境の影響を受けて形成されてきたものです。昭和四〇年生まれの私は、どつぷりと時代の価値観を身につけ、その後も、長くその価値観を疑うことなく過ごしていたのです。では、なぜそんな私が、近・現代の真宗大谷派の女性教化の歴史を研究し、その課題について考えるようになったのでしょうか。続きは、次回いたします。



特集 新連載に寄せて

今、考えてみませんか？ 男と女の未来

出版部会 近江第2組 三因寺 高田正城



今月号から福島栄寿氏の連載がスタートします。

改めて、本連載の「願い」について考えてみましょう。

【執筆者紹介】

福島栄寿（ふくしまえいじゅ）
大谷大学文学部歴史学科教授。

1965年京都市生まれ。山口大学、大谷大学大学院。博士（文学）。京都光華女子大学職員、大谷派教学研究員、札幌大谷大学准教授等を経て、2017年より現職。

【連載テーマ】

「女性教化」の近・現代史を紐解く

— 真宗大谷派の場合 —

【連載内容】

福島氏の著書『近代日本の国家と浄

土真宗—戦争・ナショナリズム・ジェンダー—（2023年1月 法蔵館）は、近代日本の社会の中で、真宗大谷派がどのように活動してきたのかを、客観的かつ批判的にとらえ考察した力作です。

本連載は、特にその中の第六章「真宗大谷派における女性教化—明治・大正・昭和・平成の教説をたどる—」を中心に、「教区だより」の趣旨に合わせ、平易な親しみやすい表現で、この問題を広く共有することを願いとしています。

筆者は近代150年を通じ、例えば「五障三従」という女性観をもとに、時代状況の変化に歩調を合わせながら繰り返されてきたのが大谷派の女性教化の歴史であり、それは家族形態等が変わり、人権尊重等の意識が高まる現代社会において、心から納得して耳を傾けられるものではないと指摘し、次のように述べています。

教学的言説は、男性教学者が女性に対して一方的に説諭する語りとして、永く存在してきた。だが、今日では多くの女性たちが声を上げるようになった。（中略）一方的に教化されることを拒否し、問題意識に目覚め、問題意識を共有する者と協同し、思索し、発信し、教団内における女性の位置は少しずつ改善しつつある。（中略）女性たちの生き様そのものが、これからの教団の女性史を形成していくのである。男女平等参画による真の同朋会運動は、まさに、これから始まろうとしているのである。

「願いとして、今、共に考えよう」

「世間の価値観」は時代の変化と共に変わっていくものです。しかし、人は「考えること」で「ほんとうの自分」を発見すると同時に、他者に開かれ、つながっていきます。

私たちは考えなければなりません。私たちが、蓮如上人が、唯円さんが、清沢満之師が考えて行動していったように。その意味では今回の連載は過去の歴史的事実の検証に留まらず、読者であ

る私たち自身の現在の在り方への問いかけでもあるのだと思います。連載の中身を福島氏に丸投げするのではなく、本誌が（筆者と読者が）そこから得たことを考えたことを共に問い直す場となることを願うものです。

それが男と女の未来を築いていくと信じてながら……

※「五障三従」について

「五障」は、女性は生まれながら「梵天王、帝釈天王、魔王、転輪聖王、仏になれない障りを持つている」という意味で、「三従」とは、女性は「幼い時は親に従い、結婚すれば夫に従い、老いては子に従わなければならない」つまり女性は男性に無条件に従わなければならない存在であるという説。釈尊以前のインド社会にあった女性蔑視観が起源と考えられている。



福島氏著書『近代日本の国家と浄土真宗—戦争・ナショナリズム・ジェンダー—』

特集

長浜・五村別院楽僧会 雅楽

雅楽のリズムで雅に過ごそう！

長浜第13組 柳岸寺 大野 淳天



清風宝樹をふくときは

いつの音声いだしつ

宮商和して自然なり

清浄勲を礼すべし

『真宗聖典第二版』（五七六頁）

清風が宝樹を吹き動かす時には、

宝樹は五音（宮・商・角・徴・羽

の五音）を出し、

その調子がよく調和して自然で

ある。

清浄勲の弥陀を礼拝せよ。

※清浄勲：勲は薫に通じる。声の清らかに

におう仏。

『親鸞和讃集』

（名畑應順 校註岩波文庫三四頁）

日本の古典音楽雅楽を演奏する長浜・五村別院楽僧会にご縁をいただき、はや二〇年くらいはたとうとしています。いまだに「調和して自然である」とはなかなか言い難いというのが現在の私の技術です。しかしそのことが雅

楽の最大の魅力ではないのかと私は考えます。千年以上の歴史がある雅楽は、たかが私の二〇年の技術ではまだまだです。雅楽の主な楽器は龍笛、篳篥、笙の管楽器、羯鼓、太鼓、鉦鼓（鉦）の打楽器で構成され、長浜・五村別院楽僧会取締役から推薦され、輪番から委託を受けた会員十四名でこれらの楽器を奏でて月二回、五村別院にてお稽古をしております。私たち会員は、雅楽の研究技術の錬磨に努め、別院の報恩講その他の行事事法要に奏楽奉仕することとを目的に日々精進しており、会員は主に京都教区長浜特区内の音楽好きな家族関係者で構成しております。今年度より雅楽の講師を定期的にお迎えし、「会員皆毎日二時間練習」を合言葉に（実際はなかなか難しいですが……）、

音楽を通じて組内や特区内の御寺院、御門徒様の皆様とのご縁をいただき、皆様方と和気あいあいとお稽古をしています。そんな私たち長浜・五村別院楽僧会ですが、二〇二五（令和七）年四月二〇日の日曜日、滋賀県米原市内にあります多目的公共施設ルッチプラザ内ホールにて、長浜・五村別院楽僧会七〇周年、混声合唱団「かがやき」十周年を記念して『仏教讃歌と雅楽のつどい』として合同演奏会を行いました。混声合唱団「かがやき」は長浜特区内の寺院、御門徒の有志により構成されています。三百席ほどのホールが満席で大変にぎやかになりました。お越しくださいました皆様大変ありがとうございました。開始寸前まで「お客様が来ていただけるのだろうか？」と不安に思っておりましたが、そんな心配は無用でした。むしろ大勢の皆様を前にしてかなりの緊張となつてしまい、「調子がよく調和して自然な演奏になったのだろうか？」と終わって

から思いましたが、沢山の拍手をいただき、安堵しました。

そんな私たち楽僧会の今後の課題としては、法義相続により先達が築かれ七〇年続く楽僧会を未来につなぐため、私たちの活動を通じ多くの方に雅楽の魅力を伝え、楽僧会に興味関心を持つていただけるような活動をしなればと考えます。そしてたとえ一人でも楽僧会に入っていただけなら私たちは大変うれしく思います。私たち長浜・五村別院楽僧会で雅楽を皆様一緒に演奏しませんか？

入会に関する問合せ先（ただし、入会者は住職・寺族である方が対象です）

■秦 信映（楽僧取締役）

（携帯 090-7354-8850）



「笙」とは？

出版部会長長浜第12組

真廣寺 竹中亜希子

私が雅楽の楽僧会に籍をおかせていただくようになり、もう15年近くになります。今回は、私が担当している「笙」についてご紹介します。笙は17本の竹管を持ち、そのうち15本にリードが付いていて、吹いても吸っても音が出ます。5〜6つの音を同時に鳴らすことで、「合竹」という美しい和音を生み出します。雅楽の演奏においては、主旋律の篳篥、そしてその旋律を彩る龍笛に対して、笙は和音で支える役割を担っています。

見た目は鳳凰が羽を立てて休む姿にたとえられ、またその音は「天から差し込む光」と表現されることが「鳳笙」とも呼ばれます。

演奏前後には、火鉢や電熱器で焙つて温めなければ音が出ない、繊細な楽器でもあります。法要の中で、このような笙の響きにも耳を傾けていただけると嬉しいです。

今、この時に、

親鸞聖人に会う



導きに感謝しつつ

近江第2組 最明寺

木村 愛



ご縁をいただき、お寺に嫁いで、はや十七年が経とうとしています。在出家の私にとつては、お寺での生活は何もかもが未経験で、戸惑うことの多い年月ではありましたが、三年前に坊守に就任させていただきました。

私の住む町内には大谷派のお寺が三カ寺あります。永代経、報恩講には、皆さんがどのお寺にも足を運ばれ、熱

心にお参りしておられます。また、在家報恩講も勤められており、コロナ禍前までは、町内の方々がお互いに参り合いをしておられ、その姿に驚くとともに感銘を受けたものです。

私は核家族で育ち、特にお内仏（お仏壇）もなく、遺影にお線香をあげ、手を合わせていました。幼い頃から、そのことを好んでしていた私に、高校を選択する時、父が大谷派の関係学校を強く薦めてくれて、その高校へと進学しました。

高校の宗教の授業で、初めて親鸞聖人のことを学び、特に『歎異抄』の教えに触れた時、それまで習ってきた「道徳観」との違いに、大きな驚きと感動を受けたことを今でも鮮明に覚えています。また、一日のはじまりの瞑想や、授業で習ったり、耳にしたりする仏教讃歌も新鮮で、そのどれもが刺激的であり、また心地のよいものでした。

その後、担任の先生の薦めもあって、大谷大学に進学し、さらに仏教への学びを深めることになりました。ところが、学びを深めれば深めるほど、自身自身の信心に迷いや疑いすらも感じ始め、私は大学の恩師に相談しました。すると、先生は「南無阿弥陀仏と声に出し

てとなえなさい」とおっしゃってくださいました。その時の私は、少しの抵抗感がありましたが、それでも先生は、「わかつてもらわなくても念仏申しなさい」とおっしゃったので私は、何度も「南無阿弥陀仏」ととなえていました。そのことで、信心が無条件にえられたわけでもなく、何かが急に変わったようにも思えることはありませんでした。

あの時から二十数年……。今でも、混沌としたままの私ではありますが、お寺に身を置かせてもらい、

今では不思議と「南無阿弥陀仏」とお念仏をとこなえることへの抵抗感はなくなっています。

お寺での生活や子育てなど、迷うことや悩むことは絶えずありますが、そんな時、今は亡き恩師から教えられた数々の言葉を思い出しながら、念仏を申して、日々の生活を送らせていただいております。そして、まだまだ未熟な私ですが、いつも温かく見守り導いてくれる両親をはじめ、ご門徒の皆様、町内の

方々、そして、私のわがままに付き合ってくれている家族に感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思います。

なぜ念仏なのか。それは、われわれがみんな自分中心のころというものを決して捨てることができない、そのことがまずなぜに対する受け止めであろう

『人間で在ることの課題』（東本願寺出版）

なかかわ こうさくろう
中川 皓三郎



正体不明の罪悪感

出版部会 山城第4組 光久寺 徳田潤子



私の娘はこども園（保育園）に通っている。

通っているというより「預けている」という方が正しいのかもしれない。2歳になる前から園に預けているので随分とこども園の生活に慣れ、園内での行事や企画等を楽しんでくれているようだ。

娘を預ける場所があるおかげで、私はお寺の仕事や他の事ができている。

こども園に娘を預ける事が決まった事を門徒様にお話しした際、よく七十代以上の女性の門徒様から「（子どもが）可哀想に」と言われたことがある。冗談っぽくお話しされたなら全く気にしなかったが、本気で言われた。その言葉を聞いて、娘に申し訳ないことをしているのではないかという罪悪感を感じた。小さな子どもにとっては親の側にいる方がいいだろう

う。子どもを預けている親御さん達もそのことは重々承知の上で預けておられると思う。

子どもを預けることを「可哀想に」とお話しされた方々は、自分達は仕事を辞めて育児に専念されていたかもしれない。母親だったら子どもの側にいて当たり前という思いや、娘の気持ちを考えて下さったの発言かもしれないが、子どもを預けないと仕事をするのは難しい。

娘に「保育園行きたくない。お母ちゃんと遊びたい」と言われる度に申し訳ない気持ちになり、「可哀想に」という言葉でさらに増す罪悪感。

小さな子どもさんを預けて仕事をしておられる世の中のお母さん、お父さんの中には子どもに対する様々な葛藤を抱えながら日々、生活をされているのだろうかと考えてしまふ出来事だった。

「男女共同参画」から問いかけられること

出版部会 近江第26組 徳乗寺 比叡谷真



私には年齢の離れた姉が二人いた。末っ子の長男として私が生まれた時、長姉は、自分がお寺の後継者になれなくなったと残念がったそう。若い頃母親からそう聞かされたが、特に何とも思わなかったと記憶している。私が物心つく頃にはすでに二人とも嫁いでいて、自分が跡継ぎだと自他ともに認めていたからだ。が、あらためて考えてみると、男子がお寺を継ぐのが当然だと、周囲はもちろん、私自身思いこんでいたことに気づかされる。

お寺の長男に生まれたことが、教えに遇う大きな縁であったことは動かしがたい。しかし、それはあくまで縁のひとつであって、幾多の縁を生きるなか、私自身が住職になることを選んだという事実がありながら、どこか言い訳をしている自分がいる。

前回（第四一〇号）の繰り返しになるが、「男女両性で形づくる教団」という言葉から問われるのは、教団の制度や組織のあり方だけではない。今の私にとって、「お寺の長男に生まれたからやむをえず住職をやっている」という言い訳にしがみつこうとする自身を破る言葉であり、破られたところから、本当の意味で生きることが始まるのだと思う。

いたら、「自分が継がなくては、と思いこまなくてよい」と伝えたい。

男と女の平等って、
なに？



京都教区 7月の教区事業		
14日(月)	10:30～16:00	教区坊守会 総会
17日(木)	10:00～17:00	教区推進員連絡協議会 総会・研修会
京都教区 7月の教区諸会議		
1日(火)	13:00～16:00	教化本部 青少幼年部会 会議 (Zoom 併用)
10日(木)	13:30～16:30	教化本部 企画室 会議
16日(水)	13:30～16:30	参事会・常任委員会
18日(金)	13:00～16:30	児童大会 スタッフ 事前説明会 (Zoom 併用)
23日(水)	10:30～16:30	教区会・教区門徒会合同会議
24日(木)	13:30～16:30	教化本部 出版部会 編集会議
25日(金)	13:30～17:30	教化本部 研修講座部会 会議
30日(水)	13:30～16:30	組長会

教務所からのお知らせ

得度受式者

二〇二五年五月六日

- ・長浜第二十二組本誓寺 中村郷土
- ・山城第二組長徳寺 仁科度
- ・山城第二組長榮寺 本多陽一朗
- ・近江第八組玄照寺 辰巳将貴
- ・近江第九組東漸寺 三輪隼
- ・近江第二十六組浄立寺 保木華
- ・丹波第二組林幽寺 柴田知
- ・因伯組浄福寺 小谷緑

敬弔

ご生前のご功勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

・長浜第十二組敬永寺

前住職 桂樹玄 九十六歳

二〇二四年十二月十九日

・長浜第十二組法雲寺

坊守 四木美恵子 九十八歳

二〇二四年十二月十五日

・敦賀組高福寺

坊守 竹本よう子 八十四歳

二〇二五年三月二十八日

・近江第三組寶善寺

坊守 松内和良 八十七歳

二〇二四年十一月十七日

〔寺院教会番号順 敬称略〕

長浜教務支所の現金取扱日について

長浜教務支所の現金取り扱いは、左記のとおりです。

7月28日(月)	8月18日(月)
8月4日(月)	9月22日(月)
9月8日(月)	10月6日(月)
10月6日(月)	11月17日(月)
11月17日(月)	12月8日(月)
12月8日(月)	12月22日(月)

宗教法人事務所備付書類の提出について

寺院(宗教法人)の毎会計年度終了後4カ月以内に、役員名簿、財産目録等の書類を寺院が所在する県の所轄庁(提出書類及び提出先の住所は、県のホームページにて確認ください)への提出が義務付けられていますので、法令に則り必ず提出くださるようお願いいたします。

なお、届出のない場合は、1件につき10万円以下の過料が処せられますので、ご注意ください。

『教区だより』について

毎月寺院へ送付しております『教区だより』は、基本3部配布しています。1部は寺院で保管し、他の2部については組門徒会員の方へお渡しください。

なお、不足の場合は、2部まで増部してお送りすることが可能ですので、教務所まで必要部数をお申し出ください(『教区だより』は最大で5部までお送りすることが可能です)。

依頼「令和六年能登半島地震」

災害に対する救援金の勧募について

昨年(二〇二四年)一月一日に発生した能登半島地震から一年半余り経過いたしました。これまで、教区内のみならず被災地の支援にご理解をたまわり、救援金をお寄せいただいておりますこと、この場をお借りして御礼を申し上げます。

このたびの地震の影響を受けた北陸の地は、真宗門徒の多い地域であります。とりわけ震源地である能登地方は多くの寺院・門徒が甚大な被害を受け、今もなお深い悲しみと不安の日々を過ごされております。真宗大谷派として、今後も全力を傾注して支援策を講じてまいります。地震発生直後から、真宗大谷派寺院の被害状況や今日までの支援活動の様子などは、真宗大谷派Webサイト内でも随時お知らせ更新しております。また、公式SNS(X)でも発信しています。

京都教区としても、息の長い被災地支援を続けてまいりたいと存じます。なにご趣旨をご賢察たまわり、救援金勧募などの被災地の支援に引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

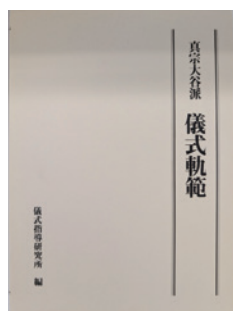
真宗大谷派Webサイト内
令和6年能登半島地震について

災害情報公式X(旧ツイッター)



京都教区別院 7 月の行事予定

2日(水)	6:00 ~ 7:00	長浜	暁天講座 伊吹勇真 師 (長浜 第21組 願正寺)	長浜別院
2日(水)	9:00 ~ 11:30	長浜	夏中 竹中慈祥 師 (長浜 第12組 真廣寺)	長浜別院
3日(木)	6:00 ~ 7:00	長浜	暁天講座 達伊優香 師 (長浜 第18組 傳正寺)	長浜別院
3日(木)	9:00 ~ 11:30	長浜	夏中 山田孝夫 師 (長浜 第21組 禮信寺)	長浜別院
4日(金)	6:00 ~ 7:00	長浜	暁天講座 増田 和佳子 師 (長浜 第16組 誓傳寺)	長浜別院
4日(金)	9:00 ~ 11:30	長浜	夏中 林憲淳 師 (大塚 教区 實光寺)	長浜別院
5日(土)	6:00 ~ 7:00	長浜	暁天講座 藤本智 師 (長浜 第21組 淨福寺)	長浜別院
5日(土)	9:00 ~ 11:50	長浜	夏中兼師 徳奉讃法要 光明祐寛 師 (長浜 第20組 養本寺)	長浜別院
5日(土)	12:00 ~ 13:00	赤野井	定例法要 (教如上人御命日速夜) 中川眞 師 (別院輪番)	赤野井別院
6日(日)	14:00 ~ 16:00	伏見	声明作法講座 浅井誠 師 (山城 第3組 皆演寺)	伏見別院
9日(水)	13:30 ~ 15:30	山科	同朋の会 磯野恵嗣 師 (教区駐在教導)	山科別院
10日(木)	14:00 ~ 17:00	伏見	伏見別院同朋会 御文輪読	伏見別院
13日(日)	10:00 ~ 11:30	岡崎	三日講「歎異抄を読む」 近藤悠 師 (列座)	岡崎別院
15日(火)	6:30 ~ 8:30	伏見	暁天講座 譽田和人 師 (近江 第6組 託仁寺)	伏見別院
15日(火)	14:00 ~ 16:00	山科	永代経兼定例法話 沙加戸崇 師 (近江 第1組 響忍寺)	山科別院
16日(水)	6:30 ~ 8:00	伏見	暁天講座 平原晃宗 師 (山城 第5組 正蓮寺)	伏見別院
17日(木)	6:30 ~ 8:00	大津	暁天講座 一色孝 師 (長浜 第13組 光西寺)	大津別院
17日(木)	19:00 ~ 21:00	伏見	親鸞教室 藤原正寿 師 (大谷大学准教授)	伏見別院
18日(金)	6:30 ~ 8:30	大津	暁天講座 渡邊愛子 師 (仏典童話作家)	大津別院
18日(金)	9:00 ~ 11:00	山科	おみがき	山科別院
21日(月)	7:00 ~	赤野井	暁天講座 飯山等 師 (大塚 教区 西向寺)	赤野井別院
21日(月)	9:30 ~	赤野井	夏御文拝読法要 飯山等 師 (大塚 教区 西向寺)	赤野井別院
22日(火)	7:00 ~	赤野井	暁天講座 花山孝介 師 (三重 教区 遍崇寺)	赤野井別院
22日(火)	9:30 ~	赤野井	永代経法要 花山孝介 師 (三重 教区 遍崇寺)	赤野井別院
25日(金)	6:45 ~ 8:00	岡崎	暁天講座 藤井慈等 師 (三重 教区 慶法寺)	岡崎別院
26日(土)	6:45 ~ 8:00	岡崎	暁天講座 一楽真 師 (大谷大学学長)	岡崎別院
27日(日)	6:45 ~ 8:00	岡崎	暁天講座 高橋法信 師 (大塚 教区 光徳寺)	岡崎別院
27日(日)	12:00 ~ 13:00	赤野井	定例法要 (宗祖親鸞聖人御命日速夜) 中川眞 師 (別院輪番)	赤野井別院
27日(日)	14:00 ~ 16:00	伏見	ご命日のつどい 中村修司 師 (山城 第4組 西念寺)	伏見別院
28日(月)	6:30 ~ 8:30	山科	暁天講座 佐野明弘 師 (大谷専修学院長)	山科別院
29日(火)	6:30 ~ 8:30	山科	暁天講座 秦信映 師 (長浜 第24組 明德寺)	山科別院
30日(水)	6:30 ~ 8:30	山科	暁天講座 狐野やよい 師 (三重 教区 西恩寺)	山科別院



『真宗大谷派 儀式軌範』
(東本願寺出版部)

『真宗大谷派 儀式軌範』に、「法要に参加するすべての人々の声や所作が調和すること」、「調和のあるお勤め」が重要であると書かれている。それぞれの違いはあれども、調和することを心掛ける。正にお浄土を莊嚴していると言える。

『教区だより』では「男女共同参画」について取り上げている。忘れてはならないのが、男女間において対立があつてはならない。排除してもいけない。どこまでも「調和」することが大切なのではないだろうか。

(出版部会 井上 至)

編集後記

【表紙の写真】「おかざき別院フェスティバルの花まつりにて」(石川慎悟 / 山城第1組 憶念寺門徒)

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌 教区だより 第422号

真宗大谷派 京都教区 Webサイト <https://www.k-kyoku.net>

【発行人】宮戸弘(真宗大谷派京都教務所長) 【発行所】真宗大谷派京都教務所 【発行日】2025(令和7)年7月1日
〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入 Tel 075-351-5260 Fax 075-351-5256 Mail kyoto@higashihonganji.or.jp

